

## 「JICAとNGOの強みを 生かすような連携で人々を支援」

JICAとNGOの連携が進む中、「人間の安全保障」の視点をNGOはどうとらえているのか。「JICA NGO相互研修」のコースリーダーを務める磯田厚子さんに聞いた。

### 住民の力に光を当てる

私が「人間の安全保障」の視点を重要だと思つのは、それが、援助を本当に必要とする人々に届けなければいけない、ということ強調している点が一つ。また、援助を受ける人々が、単なる「受益者」ということだけではなく、一人一人が「主役」として自分たちの権利を勝ち取り、また行使できる仕組みをつくらなければいけないという点。そして、住民やコミュニティーの力を強化して、さまざまな危機に陥らずに済む対策を自分たちで立てられるようにする、ということが強調されているからです。

私自身、NGOとして農村開発に携わってきた経験から、行政ができることとできないこと、住民が持つ知恵やたくましさを知っていますし、その力に光を当てることが大事だと考えていたので、「人間の安全保障」の視点をとても重視しています。

その実践は、草の根レベルで住民を支援するという立場が徹底しているNGOが得意としてきたことだと思えます。ただ、例えば住民の生活の糧となる土地や森林の資源を使用する権利が保障されていない場合、

それが保障される仕組みをつくるのが重要であり、JICAは、そういった行政の制度・政策づくりの支援が得意だと考えられています。しかし、形だけ整えてもそれがきちんと機能するためには、住民がかかわっていること、制度づくりに参加して意見を主張できることが大切であり、NGOがそのサポートを担えるのではないかと思います。

### 平和構築支援で連携を

昨年のJICA NGO相互研修のテーマが「人間の安全保障」でした。NGO側の参加者の中には、「人間の安全保障」が重視していることは昔からやっていたので今さら……という人もいましたが、議論する中で、最も援助を必要としているのは誰なのか、どんなリスクがあるのか、なぜ援助が届きにくいのか、などを改めて考え、明確にする重要性を再認識したようでした。

コースリーダーとしては、「人間の安全保障」を掲げるJICAとNGOのアプローチの違いや共通点を考えてもらうことが狙いでした。双方に利点も限界も

あり、学び合う部分も多いはず。研修では、「弱者の明確化」と、住民が自分たちだけで立ち上がるのが難しい場合、「アクター間の連携」と「住民のエンパワーメント」が重要だという共通の認識が得られました。

「人間の安全保障」の視点から、今後JICAとNGOの連携がより生かせるのは、紛争直後の平和構築支援ではないかと思えます。NGOは緊急救援と開発の経験を十分持っているし、その移行を切れ目なくつなぐことも課題として認識している。治安面や政治上の問題で国として取り組みにくい地域でも、NGOであれば活動できることもある。こういう場合、恐怖や欠乏の危機にさらされた、本心に支援を必要とする人々を、より効果的に支えることができると思います。



「人間の安全保障」をテーマに議論する相互研修の参加者たち

国際協力を実施する上でのパートナーとしてのNGOとJICAの相互理解促進と、国際協力に関する認識の共有、将来の連携に向けた人的ネットワークの形成と情報交換を目的として、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）とJICAの共催で行われる研修。2005年度は「現場から考える人間の安全保障 - NGOの視点、JICAの視点」をテーマに開催された。



特定非営利活動法人  
日本国際ボランティアセンター副代表、  
女子栄養大学教授

磯田 厚子

Isoda Atsuko